

スライド 1

新たな市民会館の整備に当たって

水戸市長 高 橋 靖

1

皆様、こんにちは。本日はたくさんの方々にお集まりいただき、ありがとうございます。

新市民会館の話だけではなく、水戸市が目指すさまざまなまちづくりの方向性を踏まえ、そのうえで、新市民会館の役割と、水戸市としてしなければならないことをお話しさせていただきたいと思います。

1 時代の潮流と課題

(1)時代の課題

- ・ 景気，経済の低迷
- ・ 人口減少社会，超高齢社会の到来
- ・ エネルギー問題
- ・ 深刻さを増す地球環境問題 など

2

今の時代の課題について，まず，景気・経済の低迷が起こっています。アベノミクスと呼ばれていますが，なかなか地方ではそういった言葉が肌で感じられない状況です。

また，人口減少社会，超高齢社会が到来しております。

さらに，原発事故を機に，さまざまな自然再生エネルギー活用への転換，電力の自由化なども，これからの課題として，考えていかなければなりません。

地球環境問題も深刻さを増しています。今年の正月は暖かかったですね。暖かいということは，それだけ気候がおかしくなっているということですから，自分たちができる環境問題を足元からやっていく必要があります。

1 時代の潮流と課題

(2) 水戸市の将来人口も減少

このままだと・・・

水戸市の25年後(2040年)の人口は、
約24,000人の減 △9.1%

このうち、生産年齢人口は、
約37,000人の減 △22.0%

※ 国立社会保障・人口問題研究所推計



3

こちらは、国立社会保障・人口問題研究所の推計であり、人口減少社会，超高齢社会の問題をグラフに表したものです。

総人口，生産年齢人口（15～64 歳），年少人口（0～14 歳），老年人口（65 歳以上）の中で，注目すべきは，老年人口（65 歳以上）だけが，今後増えていくことです。

現在，水戸市では，まち・ひと・しごと創生事業において，人口ビジョンと総合政策を策定しており，老年人口の増加問題を何とかしようと考えています。

ただ指をくわえていれば，推計のとおりになってしまいます。人口増加を図り，老年人口を支えるための人・お金をしっかり作っていかなければなりません。

1 時代の潮流と課題

(2)水戸市の将来人口も減少

人口減少 の「問題」 とは？

1 地域生活への影響…

- 商業施設や医療機関等の撤退の恐れ
- 地域コミュニティの衰退の恐れ など

2 地域経済への影響…

- 労働力の低下に伴う企業等の成長力低下の恐れ
- 就業者減少に伴う消費の減退、地域経済停滞の恐れ など

3 行政運営への影響…

- 市税収入の減少、社会保障費増大による財政硬直化の恐れ
- 公共施設の適切な維持管理ができない恐れ など

4

人口減少は、まず地域生活に影響します。その例として、商業施設や医療機関等が撤退する懸念が挙げられます。地域によっては、お店がなくなり、経済圏をつくれなくなってしまうことが、すでに起こっています。

また、地域コミュニティの衰退も懸念されます。昔は地域の人々が、缶拾い、側溝掃除、落ち葉掃除等を行っていたのですが、今は、地域によっては、超高齢社会になるとともに、若い人がいないため、そのようなことは行政でやってほしいと、要望されています。

人口減少は、地域経済にも影響します。労働力の低下に伴う企業の成長力低下、就業者減少に伴う消費の減少、地域経済の停滞などが、経済へ悪影響を与えます。

さらに、行政運営にも影響します。行政としては生産年齢人口が減ると、税収入が減少するとともに、社会保障費が上がることから、財政が硬直化する恐れがあります。市が独自に、お金を生み出す仕組みを持っていなければ、衰退してしまいます。

今、水戸市では、一般財源という、ある程度自由の利くお金が約600億円ありますが、それに対して義務的経費、つまり人件費や扶助費などは約530億円になっており、一般財源がどんどん狭まっています。水戸市では、まだ一般財源の方が上回っている状況ですが、だからといって安心してはいられない状況です。

2 水戸市の目指す姿

時代の課題に対応し，持続的発展によって，
明るい未来を展望できる都市

『笑顔あふれる安心快適空間 未来に躍動する

魁のまち・水戸 』

5

水戸市の目指す姿は「時代の課題に対応し，持続的発展によって，明るい未来を展望できる都市」であり，これは水戸市第6次総合計画のキャッチフレーズです。

2 水戸市の目指す姿

将来にわたって、

安心できる

暮らしやすい

訪れてみたい

住んでみたい

安心できる未来の水戸・グランドデザイン

ソフト、ハード2つの視点

- 1 持続可能な都市構造への転換
… 多極ネットワーク型の水戸ならではのコンパクトシティの実現
- 2 多彩な文化や交流の創出
… 多くの交流によって新たな文化を創造し、楽しめるまち、その文化が経済や産業の発展につながる成熟したまちの実現

6

「将来にわたって安心できる、暮らしやすい、訪れてみたい、住んでみたい、そのようなまちにしていくためにはどういった施策をするのか」という、水戸市が目指す姿として、「安心できる未来の水戸・グランドデザイン」を、ソフト面とハード面の両面から考えました。

はじめに、ソフト面についてですが、県南地域が元気だといっても、水戸市は、市内総生産が、茨城県内で一番多くあります。大きな生産ラインがあるというわけではないのですが、一人一人の商店主、労働者の方々に頑張っていただくことにより、1兆2,000億円の市内総生産を有している状況です。産業がないといわれる水戸市ですが、観光をはじめ、磨き上げれば伸びる産業があると考えています。その一つが文化だと考えています。

例えば、金沢市のように、文化によるまちおこしを成功させている例があります。

水戸のまちづくりのコンセプトとしては、皆が文化というものを楽しんで、いわゆる心の豊かさという精神的な部分を作り上げると同時に、その文化が経済や産業の発展につながることによって、成熟したまちを目指していきます。

2 水戸市の目指す姿

(1)多極ネットワーク型コンパクトシティ

⇒ なぜ、コンパクトシティか？



7

次に、ハード面につきましては、多極ネットワーク型の水戸ならではのコンパクトシティを実現することを目指していきます。

「なぜ、コンパクトシティなのか」といいますと、水戸市は国土交通省が推奨している多極ネットワーク型コンパクトシティを目指せる土壌があるからです。

水戸市では、都市計画法の改正に伴い、平成16年に市街化調整区域にも建物を建てられるという条例を制定しました。ここには、約3,000世帯の家が建っています。これは建築業者などにとってはビジネスチャンスとなり、経済の活性化となりました。

そのエリアにおいて人口が増えているという点においてはよいのですが、その分、郊外に人口が流出し、市街化区域を空洞化させているので、今後、都市計画の在り方については、市民レベルで議論していかなければなりません。

当時は、まだ人口減少社会を想定しておりませんでした。今は、人口減少社会を見据えた都市政策について、もう一度市民の皆様と議論していかなければならないと考えています。

まちを広げれば広げるほど、下水道や道路、街路灯など、さまざまな社会インフラの整備が必要となるので、お金のかかるまちになります。

市街化区域など、すでに社会インフラが整っており、公共交通が充実している地域に住んでいただくことで、将来、高齢者となり、自動車免許を返納した時でも暮らしやすくなります。

郊外に拡大していくという方針を大きく転換して、まちなかに住んでいただく誘導策をこれから展開しなければなりません。

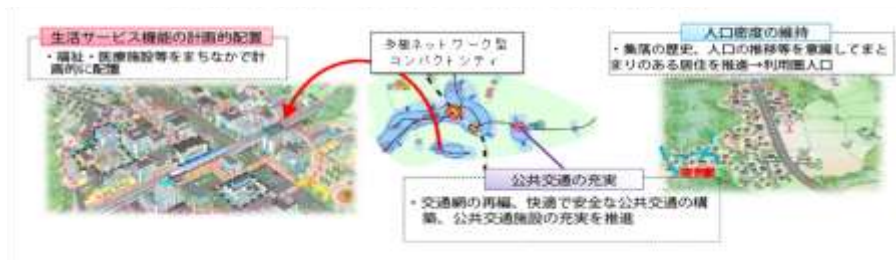
そのため、まちなか居住策を来年度から始めていきたいと考えています。

2 水戸市の目指す姿

(1)多極ネットワーク型コンパクトシティ

⇒ **多極ネットワーク型コンパクトシティ**とは？

- 医療・福祉施設，商業施設や住居等がまとまって立地
- 公共交通により医療・福祉施設や商業施設等にアクセス
- 日常生活に必要なサービスが住まいなどの身近に存在



8

こちらは国土交通省から引用した，多極ネットワーク型コンパクトシティの図です。水戸市には都市核の拠点として水戸駅，生活拠点として県庁周辺地域，内原周辺地域，赤塚周辺地域があります。

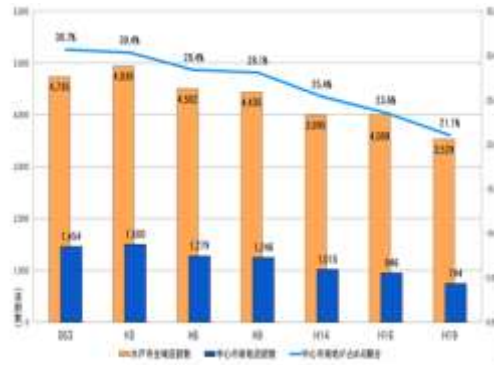
生活拠点としては，スーパーや病院があるので，そこで生活を完結するとともに，そこで足りない部分は，都市核である水戸駅周辺で用事を済ますような都市構造やネットワーク，役割分担をつくることを目指しています。

平成27年4月に設置しました交通政策課を中心に，現在，水戸市全体でバスの見直しを図っています。公共交通で都市核と生活拠点を結んでいき，環境にも人にも優しいネットワークづくりが必要となっています。

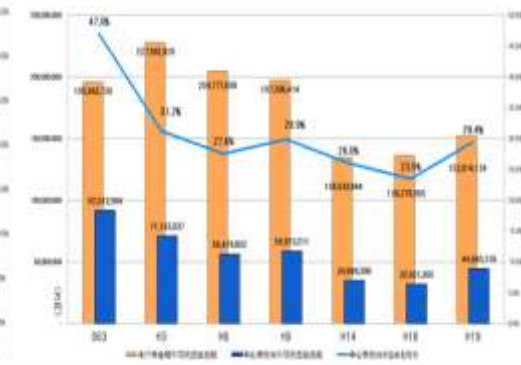
3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (1) 中心市街地の現状と課題

○店舗数の減少，商品販売額の減少

市全域と中心市街地の卸売・小売店舗数推移



市全域と中心市街地の卸売・小売商品販売額推移



続いて，都市核となる中心市街地の現状ですが，左のグラフのとおり中心市街地の小売店舗数が減少しています。

左のグラフの水戸市全域店舗数に占める中心市街地店舗数の割合の推移をみますと，中心市街地の店舗数が水戸市全域に対して減少しており，商業地域としての吸収力が低下しています。

なお，右の市全域と中心市街地の卸売・小売商品販売額推移において，数値が上がっている年は，京成百貨店ができた年ではないかと思います。

それを除くと減少しているといえます。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (1) 中心市街地の現状と課題

○大型商業施設の撤退

年月日	出店及び閉店等の状況
1985（昭和60）年3月	水戸駅ビル「エクセル」オープン（水戸駅北口）
1993（平成5）年3月	「丸井水戸店」移転オープン（水戸駅北口）
1993（平成5）年8月	「ユニー水戸店」閉店
1994（平成6）年	「高島屋ストア水戸店」閉店
1997（平成9）年	水戸駅ビル「エクセル」増築（水戸駅北口）
2003（平成15）年2月	「ボンベルタ伊勢甚」閉店（泉町）
2004（平成16）年5月	「田原屋水戸店」閉店（南町）
2005（平成17）年10月	「ダイエー水戸店」閉店（南町）
2006（平成18）年3月	「京成百貨店」移転オープン（泉町）
2006（平成18）年4月	「COMBOX310」オープン（水戸駅南口）
2007（平成19）年5月	「サントピア」閉店（南町）
2008（平成20）年11月	「水戸サウスタワー」オープン（水戸駅南口）
2009（平成21）年3月	「リヴィン水戸店」閉店（三の丸）
2011（平成23）年6月	「エクセルみなみ」オープン（水戸駅南口）
2014（平成26）年2月	「ミーモ（MIMO）」閉店（南町）

10

続いて、こちらは約 30 年間にできた施設・なくなった大型施設の一覧です。できたものが黒で、なくなったものが赤です。

かつては、サントピアでおしゃれなものを買うことがステータスでしたが、なくなってしまいました。リヴィンもなくなってしまいました。ミーモは今やマンションに変わるという状況です。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (1) 中心市街地の現状と課題

○空き店舗の増加（5年間で6.3%の増加）



11

空き店舗率は，平成 25 年は全体平均が 21.1 パーセントに対して，水戸駅周辺エリアは 23.4 パーセントとなっています。

また，ここ 5 年間で 6.3 パーセントも空き店舗率が増加しています。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (1) 中心市街地の現状と課題

○歩行者通行量の減少（昭和50年代，60年代の約4割に減少）



12

県庁が笠原町に移転してしまっからは、歴然としていますが、歩行者数が減少しています。赤が日曜日で、緑が月曜日です。

意外と思うかもしれませんが、辛うじて日曜日の方が、月曜日よりも歩行者数が多いです。これはうれしいことです。

一方で、土曜日、日曜日の中心市街地に、いかに人を集めるのかということが大きな課題となっています。

35年ほど前、私が高校生のときには、圧倒的に日曜日の歩行者が多かったです。私は常澄村の出身ですが、当時は伊勢甚や京成百貨店に行くことが大変な喜びで、ステータスでもありました。

日曜日は買い物客が多く、平日は閑散としていましたが、今では、平日の方が歩行者数の多い年もあります。近頃は日曜が若干多いです。これは京成百貨店に行くお客さんの影響があるかもしれません。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (2) 中心市街地のこれからの方向

空き店舗の増加，歩行者通行量の減少などの課題を解決していくためには？

⇒ まちの持つ「強み」を引き出し，
訪れたい，暮らしたいと思える
個性と魅力を新たに作り直す

『リデザイン』

13

空き店舗の増加，歩行者通行量の減少などの課題を解決していくためには，まちの強み，潜在力をしっかり引き出す必要があります。

また，訪れたい，暮らしたいと思える個性と魅力を新たに作り直す「リデザイン」，あるいは「リノベーション」，そういった新しい価値観，感覚が重要です。

まちを再生ではなく，創生していくまちづくりを進めていきたいと考えています。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (2) 中心市街地のこれからの方向

まちの持つ「強み」

- ⇒
- 集積された多様な都市中枢機能
 - 水戸芸術館を中心とした芸術文化
 - 水戸徳川家ゆかりの歴史



を引き出し、磨き上げる

14

まちの持つ「強み」としては、まず集積された多様な都市中枢機能があることです。

例えば、水戸市で最も儲かっている駐車場を手放す代わりに、水戸協同病院の移転を防ぎ、そこに高度医療・救急医療を担っていく病院を再建していただくという選択をとらせていただきました。

そういった病院や商業施設等の都市中枢機能があることが、まちの持つ「強み」です。

また、水戸芸術館を中心とした芸術文化という、まさに水戸市のアイデンティティとすべき文化が、25年間育まれてきたということが、大きな「強み」です。

そして、三の丸エリアには、水戸徳川家ゆかりの歴史があり、それも大きな「強み」です。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (2) 中心市街地のこれからの方向

商業だけに偏った活性化ではなく、

- 業務や行政，教育，医療など，様々な都市機能の一層の集積
- 交流やにぎわいを創出する拠点づくり
- まちなか居住，まちなか交通など暮らしやすい環境づくり

によって ➡ 多様な人が集い，ふれあい，活動するまち

15

今まで中心市街地は商業で勝負をしてきましたが，文化，歴史，医療機関，公共施設等がありますから，決して商業だけにとらわれることなく，「業・遊・学・医」などの多様な機能を集積し，交流やにぎわいを創出していきたいです。

また，まちなかに住み替えていただく方，特にお子さんをお持ちの方には，何か利点を与えて住み替えていただくような制度整備を平成28年度から始めようと考えています。

また，先ほどお話ししましたとおり，公共交通のネットワークをしっかりとつくりあげていくためには，駅を中心として，放射線状に広がっている交通体系をもっと便利にしていこうと，交通政策課で検討しています。

このように，暮らしやすい環境づくりをすることにより，多様な人が集い，ふれあい，活動をするまちを目指していきます。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (3) 中心市街地の将来像



地域特性にあわせた ゾーニング

【基本方針】

- 1 人々が訪れたいくなる
魅力づくり
- 2 人々が暮らしたいくなる
快適空間づくり
- 3 地域経済をけん引する
活力づくり

16

さきほどお話ししましたことを地図にしますと、こちらになります。

弘道館周辺に歴史・文化ゾーンがあり、おかげさまで弘道館が日本遺産に認定され、白壁塀、角櫓や大手門を整備しています。

また、千波湖を中心とした文化・自然ゾーン、偕楽園を中心とした歴史・自然ゾーンがあり、人々が訪れたいくなる魅力づくり、人々が暮らしたいくなる快適な空間づくりや地域経済をけん引する活力づくりを、地域特性に合わせてゾーニングすることにより、推進することができます。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (3) 中心市街地の将来像



都市中枢ゾーンにおける
各地区の活性化の方向性

水戸駅周辺地区

「人々を迎える歴史の薫るまち」

南町周辺地区

「業務機能と暮らしが両立するまち」

泉町周辺地区

「芸術・文化の中心としてのまち」

大工町周辺地区

「飲食業等の集積を生かしたもてなしのまち」

17

こちらは、先ほどの図をさらに細かくしたものです。

水戸駅周辺地区は、「人々を迎える歴史の薫るまち」としています。

南町周辺地区は、大手企業の支店、証券会社、生保、損保などの支店や営業所があるとともに、ダイエーの跡地には、マンション建設の計画がされていることから、「業務機能と暮らしが両立するまち」としています。

また、新市民会館の整備予定地であります泉町周辺地区は「芸術・文化の中心としてのまち」として、新たに芸術文化の発信拠点というコンセプトを持ち、文化や交流を生み出し、そして経済の活性化につなげていくという仕掛けをしていきたいと考えています。

さらに、大工町周辺地区は、「飲食業等の集積を生かしたもてなしのまち」としています。

3 コンパクトシティの核となる中心市街地 (3) 中心市街地の将来像

まちの活力を再生し，活性化を図っていくためには，

○ まちの強みを生かし，
…水戸芸術館を中心とした芸術・文化の

○ 新たな交流やにぎわいを創出する
…魅力にあふれる拠点づくり

ことが必要

18

そして，まちの活力を再生し，活性化を図っていくためには，まちの強みをしっかりと生かして，水戸芸術館を中心とした芸術・文化の新たな交流やにぎわいを創出し，魅力にあふれる拠点にしていくことが必要です。

4 新市民会館の整備に当たって (1)求められている役割



19

新市民会館の整備に当たって、求められている役割ですが、市民の芸術文化向上の拠点として芸術・文化の振興への寄与、それからコンベンションの拠点となることです。

人口減少が著しい中で、どこの自治体でも、定住人口が減る代わりに、交流人口を増やしていこうと競い合っています。

水戸市では現在、320万人の観光人口を、平成35年に450万人まで持っていくため、歴史の景観づくりや偕楽園の魅力づくり、千波公園の新たな計画づくりなどに着手しています。

ソフト・ハードの両面から観光振興を図り、交流人口を増やしていこうということではありますが、道具がなければ勝負になりません。まずは、道具を持ってソフト面の仕掛けを行っていくことが必要ではないかと考えています。

また、周辺自治体や他の公共施設との連携を図るほか、活用促進への寄与ができることがポイントとなります。

4 新市民会館の整備に当たって (2) 整備の基本方針

- 芸術文化と出会い創造する拠点
- 人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点
- 人にやさしく、アートな景観、
文化あふれるまちの拠点

20

新市民会館の整備の基本方針は、芸術文化と出会い想像する拠点、人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点、人にやさしく、アートな景観、文化あふれるまちの拠点です。これを、どのように具体化するのが重要です。

4 新市民会館の整備に当たって (3) 求められる規模，機能等

北関東3県の状況



(課題) 楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、
吹奏楽や合唱コンクールなどの大会が開催しにくい。

21

新市民会館の規模については、「こんな大きなものは必要だろうか」という声がある一方、経済団体をはじめ、各種団体からは、「水戸市も他と勝負できるものを作ってほしい」と言われております。

高崎市が駅前につくっている施設が2,018席、前橋市が2,221席、宇都宮市が2,000席、水戸市は県民文化センターが1,514席です。旧市民会館は、1,004席でした。

「県民文化センターが1,500席もあるからいいじゃないか。」とよく言われますが、私たちが問題としているのは、芸術文化団体の方々との懇談会や、東京で色々な営業をする際に、先方から、「県民文化センターには楽屋が少なく、リハーサル室がない。」と指摘されることです。

私の知り合いの方が、宝塚歌劇団にネットワークがありまして、誘致しようとしたときに、吊り物ができないことや楽屋が少なく、リハーサル室がないといった理由で断られました。

こういうことから、機能の部分をしっかり充実したものにしていかないと、水戸市は文化で勝負にならないことや、ハード面の現状について、御理解いただきたいです。

例えば、私が実行委員長を務めている磯節全国大会は、県民文化センターで決勝大会を行うのですが、練習できる場所がないので、全国から集まった一流の歌手が県民文化センターの裏手の駐車場で練習しているという、悲しい現状があります。そのような環境でやらされているのです。

このように、ホールの席の規模ばかりではなく、機能が充実していないと、勝負にならないこと、「県民文化センターがあるからいいではないか。」ということだけでは済まないということを、皆様方に御理解をいただければと思っております。

4 新市民会館の整備に当たって (3) 求められる規模，機能等

- …吹奏楽や合唱コンクールなどの
関東大会や全国大会が開催できる施設
- …全国規模の式典，大規模イベント
が開催できる施設
- …著名なアーティストの公演，
全国ツアーが開催できる施設

22

機能を備えていくことによって、今まで不可能だったものを可能にするポテンシャルを上げていきたいです。

「吹奏楽や合唱コンクールなどの関東大会や全国大会，全国規模の式典，大規模イベント，著名なアーティストの公演や全国ツアー公演が来るのか。」と言われるかもしれませんが，その点は営業力の問題ですので，後ほど，お話しします。

4 新市民会館の整備に当たって

(3) 求められる規模，機能等

部 門	各部門の想定される利用	諸室等
①大ホール部門 (2,000人程度)	●市民の芸術文化の活動・鑑賞の場 (オーケストラ，室内楽・器楽，吹奏楽，合唱，ロック・ポップス，歌謡曲・演歌，ジャズ，演劇，ミュージカル，邦楽，ダンス・バレエ，民族舞踊，演芸等) ●講演会，大会，式典等の主たる会場	舞台，客席， ホワイエ，楽屋等
②多機能ホール部門 (500人程度)	●市民の芸術文化の活動・鑑賞の場 (中規模程度の催し，映画の上映等)	舞台，可動客席， ホワイエ，楽屋等
③展示ホール部門	●市民の芸術文化の発表・美術展示の場 (絵画，彫刻，書道，写真等) ●物産イベント，商談会の会場	展示スペース， 倉庫等
④会議室部門	●会議室 ●イベント，大会等の分科会の場	大会議室，中会議室， 小会議室等
⑤創造支援部門	●市民の芸術文化活動・創造の場	各種練習室（稽古場）， 和室等
⑥交流部門	●市民が日常的に集える交流の場 ●市民への情報発信の場	エントランスホール， ロビー，喫茶，託児室 ³

こちらの表が，現在進めている新市民会館の規模・機能です。

創造支援部門が，市民の身近な創作活動をする場です。各種練習室の充実をはじめ，周りの自然景観に配慮することや市民が日常的に集える交流の場としての機能が大切です。

夕方に京成百貨店の最上階に行くと，高校生が勉強しています。そのようなことを解決していかなければならないと考えています。市民がふらっと来て，少し遊んだり，学習をしたり，本を読んだり，話をしたりするなど，集える場を整備してまいります。

また，市民への情報発信の場として，水戸市のさまざまな情報を提供していき，皆さんが気軽に情報に触れられるような機能を持たせていければと思っています。

今の計画では，大ホールを3階建てで想定しています。「大ホールは2,000席もあり，無駄ではないか。」と言われますが，例えば，1階を1,000席，2階を500席，3階を500席と分けて，1,000人しか使わないなら1階部分のみの料金，2階も使うなら1～2階分の料金，3階も使うなら1～3階分の料金というような料金体系など，多機能に使っていただくような利用方法があるのではないかと考えています。

4 新市民会館の整備に当たって

(4) 新市民会館で実現すること

- ① 『市民参加の自主事業』
- ② 『鑑賞機会の提供』
- ③ 『市民主体の芸術文化等の活動』
- ④ 『芸術文化の普及・啓発』
- ⑤ 『コンベンションの開催』
- ⑥ 『まちなか憩いの空間の提供』
- ⑦ 『市民協働イベント等の開催』
- ⑧ 『魅力度アップネットワークの構築』

24

新市民会館で実現することにつきましては、まず市民参加の自主事業が挙げられます。旧市民会館は借りる人を待っている施設でしたが、新市民会館では営業力を発揮し、色々なものを誘致していきます。

また、市民協働、市民参加により企画事業を行っていきたいです。水戸市には演劇をやっていたり、バンドをやっていたり、さまざまな人がいますが、その人たちが活動できる場がありません。

若い人達が活動できるような気軽な場を作ってあげたい、そのためには、自らが参加して利用について考えていただくことによって、市民の地道な活動がさらに発展し、また困っている人が救われるのではないかと思います。

4 新市民会館の整備に当たって (5) 中心市街地における役割



- 文化芸術の発信
- にぎわいの発信
- 地域コミュニティの発信
- 水戸ブランドの発信

25

拠点づくりとして、水戸芸術館，新市民会館，京成百貨店を連携していくことにより，文化芸術の発信，にぎわいの発信，地域コミュニティの発信，水戸ブランドの発信を仕掛けていきます。

仮に，新市民会館が郊外に整備されたら，自動車で行って，コンサートの鑑賞や自分の活動をして，そのまま帰るということになり，何の文化もつくれなくなります。

そのようなことにならないように，さまざまな仕掛けをつなげていきたいと考えています。

4 新市民会館の整備に当たって (6) 中心市街地に整備する効果

○芸術・文化の視点

- ・水戸芸術館との連携による相乗効果
- ・芸術文化の拠点性の向上
- ・みと文化交流プラザ、子育て支援センター等との連携による
利便性の向上

○まちの活性化の視点

- ・中心市街地の新たなにぎわい、交流の創出
- ・偕楽園や弘道館等の観光資源との連携によるにぎわい創出
- ・飲食店、商業施設等との連携による地域経済の活性化

26

中心市街地に整備する効果は、水戸芸術館との連携による相乗効果、芸術文化の拠点性の向上、みと文化交流プラザや子育て支援センター等をはじめ、子どもたちや活動している団体と連携しながらソフト事業を展開していくことが挙げられます。

また、中心市街地の新たなにぎわいの創出、偕楽園や弘道館等の観光資源との連携が期待できます。

文化と、歴史や自然などの観光資源のパッケージ化を図り、新たな観光戦略につなげていくとともに、色々な楽しみを知っていただきたいと考えています。

さらに、周辺には飲食店や商業施設がたくさんありますので、地域経済の活性化が期待できます。新市民会館に来た人に、そちらへ回遊してもらうための取組も必要です。

4 新市民会館の整備に当たって (8) 新市民会館整備による効果

①にぎわい交流

年間約60万人の交流人口の創出

②経済の活性化

文化芸術，宿泊等の市内経済波及効果

③市民の新たな芸術・文化の創造

28

旧市民会館の利用者数は年間 30 万人でしたが，新市民会館は，倍の 60 万人の交流人口の創出を目指しています。

大風呂敷を広げるのではなく，しっかり目的を持っていこうと考えています。そのことにより，文化芸術というお金に換算できない水戸市民の喜びや生活の楽しさをここでしっかりと育むとともに，宿泊等の市内経済波及効果をしっかりと導き出していきたいと考えています。

また，芸術文化を創造することによって，人々に潤いや豊かさといった生活の喜びをもたらしていきたいです。

4 新市民会館の整備に当たって (9) 新市民会館の効果を高めていくために

新市民会館の利活用を最大限促進

①コンベンションの体制づくり

- ・観光コンベンション，スポーツコンベンションを積極的かつ効果的に誘致する組織体制の確立
(観光協会，スポーツ団体，民間団体の協働体制)

②市民が係わりを持つ運営体制づくり

- ・市民，市民団体が，今までの市民会館以上に利用し，活動しやすいルールを市民との協働でつくりあげる

29

今後の課題としては，コンベンションが本当に実現できるのかということです。

私が市長になってから，観光協会にコンベンション係を，スポーツ協会にスポーツコンベンション係をつくって誘致していますが，課題としては，観光課，スポーツ課，文化交流課が，各々で誘致活動などを行っていることです。

今後は，コンベンションに関してそれぞれの課が行うのではなく，コンベンション部門として観光コンベンション，スポーツコンベンション，今まで行ってきた歴史文化によるまちづくりなど，さまざまなものを統括するような組織体制を確立し，今まで水戸市が弱いと言われていたコンベンション体制をしっかりと整えていくべきではないかと考えています。

そのためには，協働が重要です。民間団体との協働，スポーツ団体や民間団体との協働によって，この組織体制を確立し，ネットワークを広げ，アンテナを高くしていきたいと考えています。

新市民会館についても，市民が関わりを持つ運営体制づくりを目指していきたいです。市民及び市民団体が，旧市民会館以上に利用し，活動しやすいルールを，市民との協働でつくりあげていきたいと考えていますので，ぜひ，我こそはという方に参加していただきたいです。

また，机上の空論で，評論家みたいに参加する会議のようなものはやめようと考えています。机上で運営を評価，批評するのではなく，自ら参加して考える市民の運営協議会というものをつくっていききたいと考えていますので，皆様もアイデアがあれば，お寄せいただきたいと願っております。

4 新市民会館の整備に当たって (9) 新市民会館の効果を高めていくために

新市民会館の拠点効果は？

○再開発事業による拠点づくりには一定の集客効果

⇒ (例) 泉町1丁目南地区再開発事業による
京成百貨店の年間来客数 約2倍の480万人

(課題) これらの人の流れを、まち全体に波及させられて
いないことは反省点

30

泉町1丁目南地区市街地再開発事業により整備した京成百貨店の年間来客数は、旧京成百貨店の約2倍の480万人といわれています。この来客者を、まち全体に波及させられていないことが課題です。

新市民会館を市街地再開発事業として整備しますが、新市民会館にコンサートを見に来る、会議に来る、あるいは自分たちのサークル活動や習い事を行うといったことだけで、家に帰ってしまうのではなく、市民会館に来るという目的とは別に、少なくとももう一つ、まちを歩くための目的をつくっていくことが大切だと思っています。

4 新市民会館の整備に当たって (9) 新市民会館の効果を高めていくために

新市民会館の拠点効果を最大限高める

⇒ いわゆる従来のハコモノ行政からの脱却

① ハード整備ではなく、ソフトに重心を置く

- ・ 市民の芸術文化を醸成し、多くの交流人口を呼び込み、産業の育成にも寄与するソフト事業を推進し、「まちに新たな価値観」を生み出す。

② 拠点に集まる交流人口がまちの中に流れる仕掛けをつくる

- ・ 商店街や他の公共施設と連携しあって、まち歩きがしたくなる取組を複合的に進め、「まちに新たな人の流れ」を生み出す。

31

そのためには、いわゆるハコモノ行政からの脱却が必要です。

市民の芸術文化を醸成し、多くの交流人口を呼び込み、産業の育成にも寄与するソフト事業を推進し、「まちに新たな価値観」を生み出すということが非常に大切です。

これは私たちだけではできません。

商店街や他の公共施設と連携し、まちを歩くための第2，第3の目的をつくり、まち歩きがしたくなる取組を複合的に進め、「まちに新たな人の流れ」を生み出すことが必要です。

4 新市民会館の整備に当たって (9) 新市民会館の効果を高めていくために

交流人口をまちに流れる仕掛けづくりに必要なこと

行政の取組

- ・空き店舗対策事業
- ・リノベーションまちづくり事業
- ・創業支援
- ・水戸芸術館パートナーショップ制度の導入 など



商店主、商店街の取組

- ・魅力ある商品の販売
- ・行ってみたいと思える店づくり
- ・拠点と連携した商店街事業
- ・特色ある商店街づくり など

**何よりも、
行政と商店街が、
自ら考え
全力で取
り組むこ
とが大切**

ニーズの掘り起こし：歩いてみたい、食べてみたい、あの店に行きたい・・・

32

市では現在、空き店舗対策事業、リノベーションまちづくり事業、創業支援、水戸芸術館パートナーショップ制度の導入などの取組を進めようとしています。

また、商店街は魅力ある商品の販売、行ってみたいと思える店づくり、拠点と連携した商店街事業、特色ある商店街づくりなど、いろいろな取り組みをやっていただきたいと考えています。

何よりも、行政と商店街が、自ら考え全力で取り組むことが大切です。

芸術館や新市民会館に来て活動する、鑑賞するだけではなく、「歩いてみたい、食べてみたい、あの店に行きたい...」という、いわゆる「ついで買い」を生み出すような仕掛けを、行政と商店街が協働してやっていかなければなりません。

☆ 選択する「未来」

水戸の子どもたち、水戸で暮らす市民のために、
どちらの未来を選択しますか？

まちの中心部と言っても、
行ってみたいと思えない、
楽しめない、
新たな交流、にぎわいが生ま
れない

平凡なまち

⇔

まちの中心部にふさわしい、
行ってみたいと思える
楽しめる場所がある
新たな交流、にぎわいが生ま
れる

魅力あるまち

33

水戸市が平凡なまちでいいのか、それとも県庁所在地として風格を備えた、さまざまなことを受け止めることができる魅力的なまちにしたいのか、皆さんはどちらの未来を選択しますか。

私は、年間130件の新年会に呼ばれています。なぜ私が他の首長より多いのか、それはおかげさまで、茨城県の色々な団体が、会合の会場に水戸市を選んでくださり、開催地の市長として私が呼ばれるからです。そのために、私は茨城県中にネットワークを持つことができます。

仮に、県庁が水戸市からなくなって、それに付随して色々な産業が別の場所に移動してしたときには、そうではなくなります。雇用が失われ、産業が失われ、悪循環が生まれることになります。県庁があるからこそ、それに付随して色々な産業が育まれ、雇用が生まれ、それによって、さまざまな経済活動が生まれ、商売が成り立っていきます。色々な会合を県庁所在地である水戸市で開いていただくことで、水戸市が情報とネットワークを持つことができます。これは行政ばかりでなく、市民もそうです。さまざまなことを行っている場所であるからこそ、交流が生まれ、ネットワークが生まれ、情報を持つことができます。情報を持つことができることは、まちづくりにとって非常に大きなことです。私は50年後も100年後も県庁を水戸市に残したいと思っています。

次の世代の人たちにも、県都水戸を残していきたい、いろいろなことを受け止めることができる、魅力ある県庁所在地にしていきたいと考えています。また、そのことは、県北地域の願いとも言われています。県北地域の首長や県議会議員とよく議論をすることがありますが、水戸市が踏ん張ってほしいという要望をされます。

水戸市は、27万人の市民だけではなく、県央地域や県北地域の発展・活性化も担っているという責任意識のもとに、しっかりと道具をそろえて、ソフト事業を展開していきます。そのために、新市民会館も一助になっていることを皆様にも御理解いただきながら、次のパネリストにバトンタッチをしたいと思います。